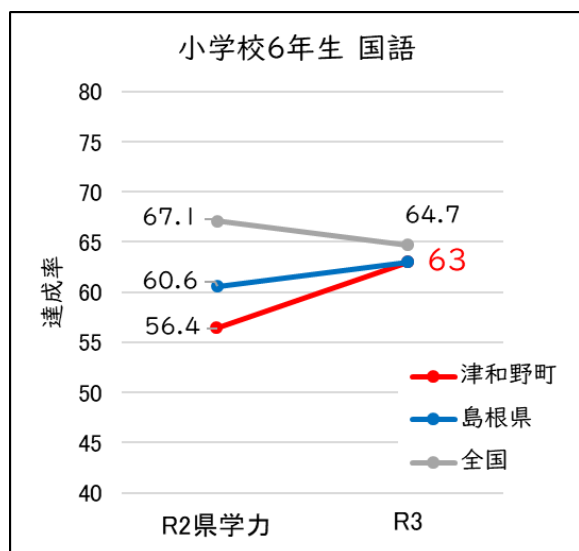


◇小学校6年生



【国語】

- 正答率は県・全国と同等である。
- R2 県学力(12月)でのマイナス差が縮まった。
- 正答数の分布は県・全国とほぼ同等である。
- 中央値は9問で、県・全国と同等である。
- 低位層・高位層が共にやや薄い。

○「知識・技能」は県+0.5pt、全国+2.2pt

- ・中でも「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」出題に対しては正答率が高い。
- 日頃の学習の積み重ねの成果が出ている。また、低位・高位層の薄さからも、突出した個ではなく、集団として取り組んでいることがわかる。

▲「思考・判断・表現」は県-0.4pt、全国-4.3pt

- ・「読むこと」は県-4.3pt、全国-7.6ptである。
- ・資料を読み、問われた内容について要約して書く問題の正答率が低い。
- 内容の中心となる事柄や、必要な情報を見付ける力に課題がある。

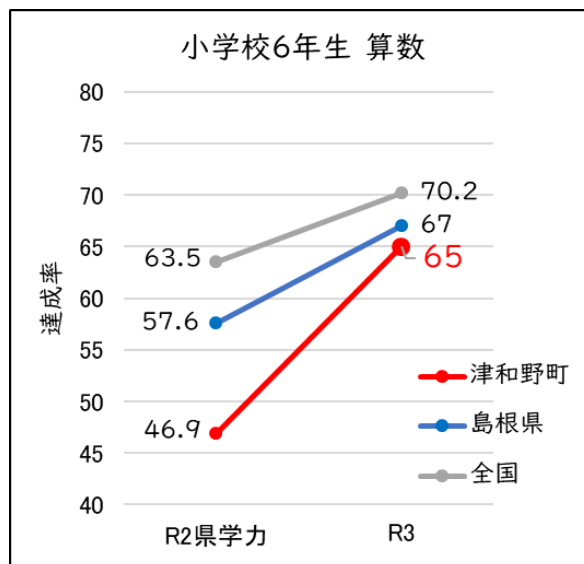
○「話すこと・聞くこと」「書くこと」、記述形式の正答率は、全国をわずかに下回るものの、県の平均よりも高い

- また、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」出題に対して、全国+5.9ptである。
- 自分の思いや考え方を伝える力が高い。

▲記述式の問題は無解答率が6~10pt高い

- ・調査で「解答時間が足りなかった」と答えた児童が約3割と比較的高い。
- 「読むこと」の力の低さとは別に、読み書き自体の処理速度に課題がある。

◇小学校6年生



【算数】

- 正答率は県より低く、全国とは5ptの差がある。
- R2 県学力(12月)でのマイナス差が縮まった。
- 正答数の分布は県とほぼ同等であるが、全国よりもやや左(低得点)に寄っている。
- 中央値は13問で、県と同等で、全国より低い。
- 低位層がやや厚く、高位層が薄い。

○「測定」の領域は県・全国を上回っている

- ・道のりや時間、三角形の面積などを比べて測定する技能は身に付いている。

○「式と計算」の領域は県・全国と同等

- ・12月の県学力調査では平均を下回っていたことから、継続的な積み上げができています。

▲「図形」の領域は県-1.3pt、全国-7.2pt

- ・直角三角形の面積の求め方は全国-17.6pt
- ・平行四辺形の面積の求め方は全国-8.5pt
- 求積の公式が定着していないこと、その公式の図形的な意味理解が伴っていないことに課題がある。

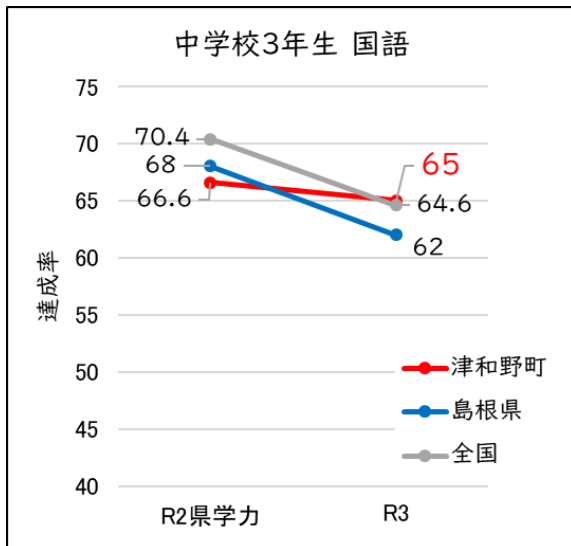
▲「変化と関係」の領域は県-4.8pt、全国-7.1pt

- ・速さを求める式、速さから時間と道のりの関係を考える問いは、約10~12pt低い
- 道のり・速さ・時間の相互の関係や、それを求める式について意味の理解に課題がある。

▲記述式は正答率が低く、無解答率も高い

- ・複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問いは全国-8.2pt、無解答率+14.7ptとかなり高い。
- データを基にして、理由をつけて説明する対話的な活動を積み重ねる必要がある。

◇中学校3年生



【国語】

- 正答率は県を上回り、全国と同等である。
- R2 県学力(12月)でのマイナス差が縮まった。
- 正答数の分布は県・全国とほぼ同等である。
- 中央値は10問で、県・全国より高い。
- 高位層がやや厚く、低位層は同等である。

○「言語についての知識・理解」は県+8.2pt、全国+5.4pt

・「漢字を正しく読む、意味を正しく理解すること」ができています。

→日頃の学習の積み重ねの成果が出ている。

○「読むこと」は、5pt程度上回っている

・「文脈における語句の意味を理解すること、内容を理解すること」ができています。

○「話すこと・聞くこと」は、県・全国と同等

・「話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」出題に対しては、県・全国より6pt程度上回っている。

→特活での話合い活動の経験などが表れている。

▲この問いの無解答率が約12pt高く、集団全体で力を定着させているとは言えない。

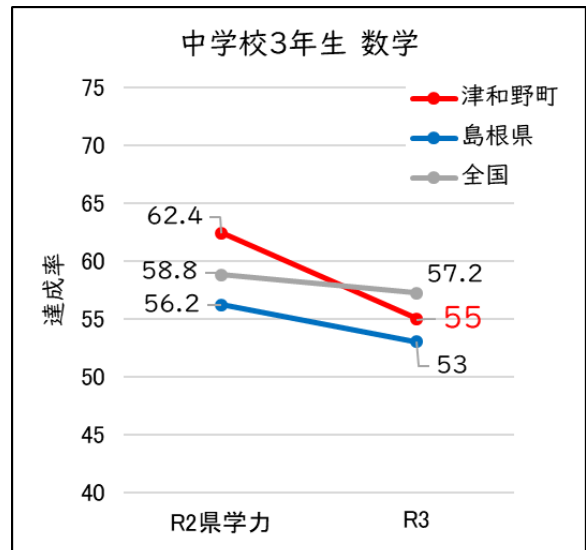
▲「書くこと」については、県-5.7pt、全国-7.1pt

・「文章の構成の工夫を考える」「相手に効果的に伝わるように書く」出題に対しては、5~9pt程度下回っている。

・記述式の問題について、正答率、無解答率ともに同等ではあるが、課題がある。

・調査でも「書くことについて、根拠を明確にしたり表現を工夫して書いたりしている」に対して「当てはまる」は約12pt低く、意識のうえでも課題がある。

◇中学校3年生



【数学】

- 正答率は県をやや上回り、全国をやや下回った。
- R2 県学力(12月)の高水準から大きく下がった。
- 正答数の分布は低・中・高位に3つの山がある。
- 中央値は12問で、全国と同等である。
- 低位層(3~6問)に厚みがある。

○「数と式」は全ての問いで全国と同等かそれ以上  
・数式の計算、数量を方程式で表すなどの数学的な技能は、多くの生徒が定着をしている。

○「図形」の領域は県・全国を上回っている

・平行線や平行四辺形の位置関係を説明することができており、無解答率も高くないことから、力がついていることが伺える。

▲「関数」の領域は全国-5.4pt

・R2 県学力(12月)では正答率が高かったが、関数の意味の理解、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明すること問いでは、約8~10pt全国より低い。

→グラフを読み取ること、グラフを処理することなどの基礎的な力を活かして、活用の課題に取り組む必要がある。

▲「資料の活用」の領域は全国-4.6pt

・本單元における知識・理解、技能を問われた3つの課題で約3~6pt全国を下回っている。

→年度末に学習した内容であり、復習が十分に行われていないことが伺える。

「関数」及び「資料の活用」について、計画的な学び直しや復習の機会を設けることで、基礎・基本の定着を図ることが必要である。